

日本政府がかつて国策として進めたハンセン病患者へ隔離などの対応、
そして現在の沖縄の「基地」問題。この二つは同根であると、奥間政則さんは言います。
ふたつの問題の当事者でもある奥間さんの綿密な調査と実体験に基づく知見から、
国策が市民を分断し差別を生み出す構造を読み解き、
私たちもまた「当事者」として、国策と人権について考える時間になりたいと思います。



辺野古大浦湾のドローン写真
©沖縄ドローンプロジェクト

宇都宮大学国際学部
清水研究室主催
公開講演会

国策が生む差別を考える 沖縄の基地問題と ハンセン病問題の当事者として



講師 奥間政則

おくまさのり ■奄美大島で元ハンセン病患者の両親のもとに生まれる。沖縄県国頭郡大宜味村在住。元土木技術者であり、その知見を生かして辺野古の調査団や共同で立ち上げた「沖縄ドローンプロジェクト」などで活動。新聞に記事が掲載されたことがきっかけで、2017年からは沖縄の基地問題とハンセン病問題の2つの国策の差別をテーマに各地で講演活動も行っている。

2022年
12月16日(金)
16時～18時

■開催方法と定員

対面参加：先着100名
zoomでの参加も可能です
いずれも無料です

■対面参加の会場

宇都宮大学峰キャンパス
5号館B棟1階 5B11教室

■参加申し込み

学外の方は対面・zoom
ともにQRコードまたは
URLから12/15までに
お申込み下さい。



宇都宮大学関係者で対面参加を希望される方は、申し込みは不要です。

<https://forms.gle/RzJ5q3zcTf8v5pbm8>

問い合わせ先 ■清水研究室
uuforumsymposium(a)gmail.com
(a)を@にかえてお送りください